

# 聖路加看護学会 ニュースレター

第12回聖路加看護学会学術大会を終えて 第12回聖路加看護学会学術大会を振り返って 第12回聖路加看護学会学術大会報告 座長・司会者のメモから  
大会参加者からのメッセージ 総会の焦点 第13回聖路加看護学会学術大会のご案内 お知らせ 編集後記

## 第12回聖路加看護学会学術大会を終えて

第12回学術大会長 太田喜久子

「少子高齢社会を生きる力、支える力」をメインテーマに第12回学術大会を開催することができました。多くの皆様のご参加をいただき、またたくさんの方々をサポートをいただき、無事に終了することができました。心から感謝申し上げます。大きくかつ重要なテーマですので、これからもさまざまな場で論議が広がり、深まることを願っています。

少子高齢化が進むにつれ、私たちは何を大事としてどのように生きていくのか、問われる場が多くなると思います。個として生きる力を持つことは、同時に、人を支える力と人に支えられていることを受け止める力がなくてはならないでしょう。

有限の世界の中で、年齢を越え、職業や立場を越え、私たちは互いにもてる力や知恵を出し合い、手を携えて生きていくことが求められると思います。そういう意味で看護職もさまざまな脱皮をしつつ、専門性を高め、人々とともにある姿を追求していくことがますます必要になるのではないのでしょうか。

聖路加看護学会はその設立の趣旨を重んじ、それをオープンに打ち出していくことで一層発展していくでしょう。生きる力、支える力を信じていきましょう。

## 第12回聖路加看護学会学術大会を振り返って

2007年9月22日（土）聖路加看護大学において「少子高齢社会を生きる力、支える力」をメインテーマに第12回聖路加看護学会が開催されました。当日は天候にも恵まれ、参加者数は173名と多くの方にご参加いただきました。

太田喜久子大会長の会長講演「高齢者・家族の生きる力、支える力と看護」では、超高齢社会を向かえる日本において、我々看護師が専門職としてどのように力を発揮していったらよいのかを考えるきっかけになったのではないかと思います。

今大会はじめての試みとしてCNS（専門看護師）フォーラムを「私たちは専門看護師制度をどう発展させるのか」をテーマに行いました。北里大学病院外来看護係長／化学療法センター看護係長の鈴木美枝子さんには、大学病院の中でのCNSの機能発揮と成長促進について、日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会委員長の井上智子さんにはCNS教育課程の洗練と教育制度の発展について、そして、日本看護協会 常任理事の廣瀬千也さんには専門看護師個人認定の促進と制度の充実についてお話をいただきました。

シンポジウムは、「少子高齢社会を生き抜く知恵と技」を

テーマに、デイサービスこのゆびとーまれの惣万佳代子さん、東京都北区健康福祉部高齢福祉課 保健師の小宮山恵美様、兵庫県立姫路循環器病センターの得居みのりさんをお招きして、実践の場で活躍している看護職の方々に貴重な体験に基づく考えをお話していただきました。

また、一般演題口演12題、示説15題、事例検討2題、交流集会1題、学術交流広場と、それぞれ興味深いテーマを発表していただき、各会場とも参加者の皆さんと活発で有意義な意見交換ができたのではないかと思います。パネリストおよび、シンポジストの方々、司会、座長をお引き受けくださったの方々、演題を出してくださった皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

最後に、本学会は企画委員9名、実行委員25名、ボランティア18名の合計52名のスタッフによって運営いたしました。このような実りある学術大会の運営にご協力いただいたスタッフの皆様、そして参加して下さった皆様、心より感謝いたします。ありがとうございました。

第12回聖路加看護学会学術大会事務局：

小西佳之子

# 第12回 聖路加看護学会学術大会報告

【日 時】 2007年9月22日(土)  
9:30~17:00  
【会 場】 聖路加看護大学  
【大会長】 太田喜久子  
(慶應義塾大学看護医療学部)  
【テーマ】 少子高齢社会を生きる力、  
支える力



受付

【プログラム】  
会長講演 アリス C・セントジョン  
メモリアルホール 9:35~10:20  
高齢者・家族の生きる力、支える力と看護  
会 長 太田喜久子(慶應義塾大学看護医療学部)  
司 会 杉本 正子(東邦大学医学部看護学科)

CNS フォーラム  
アリス C・セントジョン メモリアルホール  
13:15~14:45  
「私たちは専門看護師制度をどう発展させるのか」  
司 会 及川 郁子(聖路加看護大学)  
野末 聖香  
(慶應義塾大学看護医療学部)



太田会長

パネリスト  
CNSの機能発揮と成長促進  
鈴木美枝子(北里大学病院外来看護係長 化学療法センター看護係長)  
CNS教育課程の洗練と教育制度の発展  
井上 智子(日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会委員長)  
専門看護師個人認定の促進と制度の充実  
廣瀬千也子(日本看護協会常任理事)

シンポジウム  
アリス C・セントジョン メモリアルホール 15:00~17:00  
「少子高齢社会を生き抜く知恵と技」  
司 会 井部 俊子(聖路加看護大学)  
シンポジスト  
世代を超えた生活の場の提供  
惣万佳代子(デイサービス このゆびとーまれ)  
地域におけるサポートシステムの形成  
小宮山恵美(東京都北区健康福祉部高齢福祉課)  
高齢者・家族の力を引き出す看護  
得居みのり(兵庫県立姫路循環器病センター)

総 会 アリス C・セントジョン メモリアルホール 12:10~12:50

## 口 演

【第1群】第I会場 研究発表(301講義室) 10:30~11:15  
座長 菱沼 典子(聖路加看護大学)

- 入院患者の朝の生活の構造  
大橋久美子(聖路加看護大学大学院博士後期課程)
- 産褥入院中に提供される直接ケア時間  
- 24時間のタイムサンプリングから -  
松永 佳子(東邦大学医学部看護学科)
- 臨床看護師におけるキネステティック概念を応用した体位変換の動きの感覚と認識  
只浦 寛子<sup>1)</sup> 佐久間英行<sup>2)</sup> 徳永 恵子<sup>1)</sup> 吉田 俊子<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup>宮城大学 <sup>2)</sup>東京医科歯科大学医学部附属病院

【第2群】第I会場 研究発表(301講義室) 11:15~12:00  
座長 亀井 智子(聖路加看護大学)

- 百寿者を支える家族による介護の実態  
ラウ優紀子<sup>1)</sup> 太田喜久子<sup>2)</sup> 小西佳之子<sup>3)</sup>  
<sup>1)</sup>慶應義塾大学 SFC 研究所 <sup>2)</sup>慶應義塾大学看護医療学部  
<sup>3)</sup>慶應義塾大学看護医療学部
- 重症心身障害のある子どもの育児の力を見いだす父親の体験  
田中 美央(自治医科大学看護学部)
- 児童虐待防止に関する関係職種の教育的ニーズ - 沖縄離島の場合 -  
山城 五月<sup>1)</sup> 前田 和子<sup>1)</sup> 沼口知恵子<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>沖縄県立看護大学 <sup>2)</sup>茨城県立医療大学

【第3群】第II会場 研究発表(302講義室) 10:30~11:15  
座長 野村 美香(聖路加看護大学)

- 否認を身体症状で表した患者への関わりで生じた、  
患者 - 看護師双方の無力感と疲労感  
- 身体表現性障害と診断されたがん患者との面接過程の分析 -

瀬尾 千晶(静岡県立静岡がんセンター)

- 代謝循環器系外来患者の飲酒・喫煙習慣のアデクシオンへの影響  
- 乳酸脱水素酵素や糖代謝能とQOLの関係から -  
関 美奈子(国際医療福祉大学大学院博士課程)
- 血液透析療法を受けて生活している慢性腎不全患者の気持ち  
- 「私を保ちたい気持ち」に焦点をあてて -  
森田 夏実(慶應義塾大学看護医療学部)



第二会場

【第4群】第II会場 研究発表(302講義室) 11:15~12:00  
座長 田中美恵子(東京女子医科大学)

- CNS看護教育の日米比較 - 高度看護実践教育の探索 -  
野地 有子<sup>1)</sup> 柿川 房子<sup>1)</sup> 粟生田友子<sup>1)</sup> 直成 洋子<sup>1)</sup>  
岡村 典子<sup>1)</sup> 長瀬 亜岐<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup>新潟県立看護大学
- 看護師長が認識する医療事故発生後の看護師・看護チームへの精神的支援と課題  
福田 紀子(慶應義塾大学大学院博士課程)
- 精神障害者の地域生活促進のための Assertive Community Treatment (ACT) の介入プロトコールとその評価に関する研究  
- 精神看護専門看護師と多職種チームとの連携と課題 -  
宇佐美 しおり<sup>1)</sup> 野末 聖香<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>熊本大学医学部保健学科精神看護学 <sup>2)</sup>慶應義塾大学看護医療学部

## 示 説

掲示 9:30~15:00

【第5群】第III会場 研究発表(2階ラウンジ) 10:30~11:00  
13. 5歳児を対象とした「からだの仕組み」についての健康教育プログラム開発のプロセス [実践報告]

- |                     |                     |                     |                     |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 佐居 由美 <sup>1)</sup> | 菱沼 典子 <sup>1)</sup> | 松谷美和子 <sup>1)</sup> | 中山 久子 <sup>1)</sup> |
| 有森 直子 <sup>1)</sup> | 田代 順子 <sup>1)</sup> | 大久保暢子 <sup>1)</sup> | 石本亜希子 <sup>1)</sup> |
| 山崎 好美 <sup>2)</sup> | 瀬戸山陽子 <sup>3)</sup> | 岩辺 京子 <sup>4)</sup> | 島田多佳子 <sup>5)</sup> |
| 今井 敏子 <sup>6)</sup> | 村松 純子 <sup>7)</sup> |                     |                     |
- <sup>1)</sup>聖路加看護大学 <sup>2)</sup>前聖路加看護大学  
<sup>3)</sup>東京大学大学院医学系研究科健康社会学  
<sup>4)</sup>聖路加看護大学非常勤講師学校保健 <sup>5)</sup>聖路加看護大学大学院博士課程  
<sup>6)</sup>東洋英和女学院小学部養護教諭 <sup>7)</sup>"Baby in Me"

- 看護大学が提供する市民への健康講座の実施状況と参加者の反応  
高橋 恵子<sup>1)</sup> 菱沼 典子<sup>2)</sup> 石川 道子<sup>3)</sup> 松本 直子<sup>2)</sup>  
金澤 淳子<sup>2)</sup> 大久保菜穂子<sup>3)</sup> 内田千佳子<sup>1)</sup> 鈴木 久美<sup>4)</sup>  
印東 桂子<sup>5)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加看護大学 COE 研究員 <sup>2)</sup>聖路加看護大学  
<sup>3)</sup>聖路加健康ナビスポット <sup>4)</sup>兵庫医療大学 <sup>5)</sup>聖路加看護大学大学院
- 多世代交流型デイプログラムの実践的開発と Logic Model による分析



示説会場

【第6群】第III会場 研究発表(2階ラウンジ) 11:00~11:30

- 新人看護師への移行演習プログラムの試行と評価(1)  
- コミュニケーションスキル習得のための演習 -  
松崎 直子<sup>1)</sup> 桃井 雅子<sup>2)</sup> 佐居 由美<sup>2)</sup> 平林 優子<sup>2)</sup>  
松谷美和子<sup>2)</sup> 村上 好恵<sup>1)</sup> 高屋 尚子<sup>3)</sup> 飯田 正子<sup>3)</sup>  
西野 理英<sup>3)</sup> 寺田 麻子<sup>3)</sup>  
<sup>1)</sup>前聖路加看護大学 <sup>2)</sup>聖路加看護大学 <sup>3)</sup>聖路加国際病院
- 新人看護師への移行演習プログラムの試行と評価(2)  
- 状況設定の中での与薬の基本演習 -  
村上 好恵<sup>1)</sup> 平林 優子<sup>2)</sup> 飯田 正子<sup>3)</sup> 松谷美和子<sup>2)</sup>  
佐居 由美<sup>2)</sup> 桃井 雅子<sup>2)</sup> 松崎 直子<sup>1)</sup> 高屋 尚子<sup>3)</sup>  
西野 理英<sup>3)</sup> 寺田 麻子<sup>3)</sup>  
<sup>1)</sup>前聖路加看護大学 <sup>2)</sup>聖路加看護大学 <sup>3)</sup>聖路加国際病院
- 新人看護師への移行演習プログラムの試行と評価(3)  
- 多重課題シナリオによる演習 -  
寺田 麻子<sup>1)</sup> 西野 理英<sup>1)</sup> 高屋 尚子<sup>1)</sup> 飯田 正子<sup>1)</sup>  
佐藤エキ子<sup>1)</sup> 松谷美和子<sup>2)</sup> 桃井 雅子<sup>2)</sup> 佐居 由美<sup>2)</sup>  
平林 優子<sup>2)</sup> 松崎 直子<sup>3)</sup> 村上 好恵<sup>3)</sup>

- <sup>1)</sup>聖路加国際病院 <sup>2)</sup>聖路加看護大学 <sup>3)</sup>前聖路加看護大学  
 19. 日韓看護大学生の認識する入院患者における家族と看護師のケア役割の範囲  
 春日 美穂<sup>1)</sup> 中山 和弘<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加国際病院 <sup>2)</sup>聖路加看護大学

- 【第7群】第Ⅲ会場 研究発表（2階ラウンジ）11：30～12：00  
 20. 在宅摂食・嚥下障害者の誤嚥予防における家族の働きとケアマネジメントの現状  
 糸井 和佳（聖路加看護大学）  
 21. 在宅ターミナル期患者の家族が患者にアロマセラピーを行うことによる満足感の検討  
 五十嵐由理香<sup>1)</sup> 大久保暢子<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加国際病院 <sup>2)</sup>聖路加看護大学  
 22. Program Action-Logic Modelによる認知症地域ケアシンポジウムの評価 - 高齢者主導型ケアの創設に関する地域ケアの分析 -  
 川上 千春<sup>1)</sup> 亀井 智子<sup>2)</sup> 梶井 文子<sup>2)</sup> 山田 艶子<sup>3)</sup>  
 杉本 知子<sup>4)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加看護大学 COE 研究員 <sup>2)</sup>聖路加看護大学  
<sup>3)</sup>前聖路加看護大学 <sup>4)</sup>聖路加看護大学大学院  
 23. 大学のアウトリーチ活動としての「高齢者のためのフットケア講座」の実施と評価  
 梶井 文子<sup>1)</sup> 亀井 智子<sup>1)</sup> 山田 艶子<sup>2)</sup> 川上 千春<sup>3)</sup>  
 杉本 知子<sup>4)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加看護大学 <sup>2)</sup>前聖路加看護大学  
<sup>3)</sup>聖路加看護大学 COE 研究員 <sup>4)</sup>聖路加看護大学大学院

- 【第8群】第Ⅲ会場 研究発表（2階ラウンジ）10：30～11：00  
 24. 世界のコンドーム価格とHIV罹患率  
 長松 康子<sup>1)</sup> 宮口 萌<sup>2)</sup> 大山 季恵<sup>2)</sup> 原 端恵<sup>2)</sup>  
 佐々木空美<sup>3)</sup> 柳田美智子<sup>3)</sup> 仙波百合香<sup>4)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加看護大学 <sup>2)</sup>聖路加国際病院 <sup>3)</sup>東京大学医学部附属病院  
<sup>4)</sup>聖路加看護大学大学院  
 25. タイ国の精神医療におけるタイ仏教の役割について  
 大山 季恵<sup>1)</sup> 長松 康子<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加国際病院 <sup>2)</sup>聖路加看護大学  
 26. 幼稚園児を持つ在日外国人母親が直面する育児困難と期待される支援  
 仙波百合香<sup>1)</sup> 長松 康子<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加看護大学大学院 <sup>2)</sup>聖路加看護大学

## 座長・司会者のメモから

### 【会長講演】

会長講演のテーマは「高齢者・家族の生きる力、支える力と看護」であった。内容は、高齢社会の概略、健康問題と看護、これまでの研究活動と成果、生きる力・支える力と看護であり、最後に「高齢者と共に生きる社会をつくる」で締めくくられました。終始、太田先生の対象への優しいおだやかな眼差しが印象的でした。本題に入る前に、「聖路加と私」という題目では、先生が聖路加の教育から感じることと思うことについて率直に話されました。それは確かに伝統を重んじる聖路加らしい良さでありましたが、周囲から見て、その聖路加の良さは太田先生そのものである、と感じ入りました。現在そしてこれからも益々のご活躍を祈ります。

### 【CNSフォーラム会場】

今回初めて開かれたCNSフォーラム。職場の管理者、日本看護系大学協議会、日本看護協会、それぞれの方のお話には力がこもり、白熱した意見交換もありました。制度の狭間の中で、現在のCNSの方が置かれている状況など、CNSの方々からの発言が少なかったのが残念でした。これからCNSはどのように発展していくのか、その方向はまだまだ模索段階にあるという印象を受けましたが、これを機会にさらなる議論の場を期待したいと思います。

### 【第1群 第Ⅰ会場 口演】

看護現場の観察結果や体位変換の方法論に関する3題が発表されました。どの課題にも会場からの質問があり、時間を少しオーバーしました。今日の意見交換がさらに研究を進展させると期待できるセッションでした。

### 【第3群 第Ⅱ会場 口演】

がん、代謝循環器系疾患、慢性腎不全という長期に渡って疾病や治療と共に生きる人々の心身の反応を詳細かつ多面的にとらえ、看護実践への示唆を得ようとした3題の演題でした。大先輩から若手の実践者、研究者が一同に会した会場で、深みのある質疑応答が行われました。実践者には研究的な視点、研究者には実践的な視点で発見が得られたことと思います。

### 【第4群 第Ⅱ会場 口演】

演題は、CNS看護教育の日米比較、医療事故発生後の看護師・看護チームへの精神的支援に対する看護師長の認識というリエゾンの課題、精神障害者の地域生活促進のための精神専門看護師による取り組みの評価の3題でした。

27. タイ都市部スラムにおけるヘルスボランティア活動と直面する困難  
 柳田美智子<sup>1)</sup> 長松 康子<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>東京大学医学部附属病院 <sup>2)</sup>聖路加看護大学

- 【事例検討1】第Ⅳ会場（401講義室）13：15～14：30  
 28. 高齢者の家族介護力を引き出すアプローチ  
 秋山 正子・田中 信子・佐々木絵美  
 （榎ヶアース 白十字訪問看護ステーション）

- 【事例検討2】第Ⅴ会場（404講義室）  
 13：15～14：30

29. DVにより夫から離れる決断をした在日外国人妊婦の事例  
 林田 幸子<sup>1)</sup> 片岡弥恵子<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>大森赤十字病院  
<sup>2)</sup>聖路加看護大学



- 【交流集会】第Ⅱ会場（302講義室）  
 13：15～14：30  
 事例検討会場  
 30. 聖路加看護学会における研究のグローバル化に向けてⅡ：読みやすい英文抄録の書き方  
 田代 順子<sup>1)</sup> 木下 幸代<sup>2)</sup> 園城寺康子<sup>3)</sup>  
<sup>1)</sup>聖路加看護学会理事長 <sup>2)</sup>聖路加看護学会編集委員長  
<sup>3)</sup>聖路加看護大学非常勤講師

- 【学術交流ひろば】第Ⅲ会場（2階ラウンジ）9：30～15：00

聖路加看護学会は、看護実践者および研究者がお互いに学術交流を深めながら、一体となって看護実践の向上をめざした研究を進めること、さらには社会の健康と福祉に貢献することを目的として活動しています。そこで、聖路加看護学会と密に関連のあるところが一堂に集まり、多くの学会員の学術的研鑽をはかるために自由な情報発信と情報交流をめざしたひろばです。



学術交流ひろば

CNSの教育・実践に関連する研究テーマであったためか、関心をもたれる方が多く、会場には大勢の人が集まりました。日本におけるCNS教育の課題を認識する機会となったとともに、CNSの視点からの現場の問題抽出や、CNSならではの高度な介入など、啓発的な内容でした。

### 【第5・6・7・8群 第Ⅲ会場 ポスターセッション】

ポスター会場では、対象や生活の場の多様性と研究手法の広がりのある15題が発表されました。テーマは本学COEの実践報告、新卒看護師離職予防の移行期演習プログラム評価、在宅療養者の介護家族支援とケアマネジメント、国内外の外国人支援、日韓の家族・看護師の役割比較などです。多様な健康レベル、国籍、立場（市民・家族・専門職）の人々に関する発表でしたが、根底に流れるテーマはいろいろな人々との協働であったと思います。どの発表も来場した参加者との討論が熱く交わされ、テーマへの高い関心を伺わせるとともに、実践と研究を今後につなげるための情報交換ができた、まさに「協働」の場となったセッションでした。

## 第12回聖路加看護学会学術大会 参加者からのメッセージ

学会誌も年に2回発行することですから、これを契機に大会も1日でなく2日（土曜日、日曜日（午前中だけでもよい））にして、1日目の発表終了後に懇親会を開いたらどうでしょう。学会は、研究発表の場であると同時に、会員相互の交流の場でもあるべきでしょう。示説（ポスター発表）の発表者は、ポスターの前に立っているだけでなく、5分間程度、発表内容（要約）を聴講者に発表した方がよい。したがって、座長も必要となる。午後のシンポジウム、CNSフォーラムには、司会、シンポジストの他に、指定討論者（できる限り、看護学以外の専門家、心理学、医学、法律学等）を少なくとも1名加えると、議論の幅が広く多角的になり、より充実した会が運営される。大会は、毎年聖路加看護大学で行うより、大会長の所属する大学で行う方が、学会としての重みが増すし、会員も増加するのではないのでしょうか。  
 （東京・60代、H・Y）



## 第12回聖路加看護学会総会の焦点

聖路加看護学会 高木廣文, 大久保暢子 (庶務担当)

第12回聖路加看護学会総会は、2007年9月22日土曜日に出席者約40名、委任状提出者263名により開会されました。学術大会長である太田喜久子氏を議長として、2007年度の理事会報告、活動報告、会計報告、そして2008年度の事業計画案および予算案について説明、質疑応答がなされました。総会の議題はすべて承認されました。

今回の理事会報告の焦点は、「学術大会講演集を含む、学会誌年3回の発行」と「今後の学術交流会のあり方」についてでした。学会誌は、年々、投稿数が多くなり、年1回の発行では掲載が困難になってきたこと、研究成果をなるべく早く掲載できる機会を増やすことが理由で、発行回数を増やすこととなり、承認がなされました。一方、学術交流会は、近年、参加者数が減り、会員相互の交流や社会貢献が果し難いことから、学術交流会のあり方を検討していく方向性が報告されました。

また、2008年度の事業計画案として、1. 第13回学術大会の開催、2. 学会誌第12巻の発行、3. ニュースレターの発刊、4. 会員相互の学術的交流、5. 会員の拡充、6. 同窓会との連携、7. 将来検討(将来構想検討委員会の継続)、8. 日本看護系学会協議会および看護系学会等社会保険連合などへの参加の8つの活動計画および予算案について説明がなされ、承認されました。

日本学術会議の再編、独立法人化が進む中で、聖路加看護学会のあり方も様々な意見の中で審議がなされています。2008年度事業計画案の中の会員拡充、同窓会との連携、将来構想委員会の継続は、今後の学会のあり方を踏まえての計画案とも言えます。

今後も本学会が広く社会に貢献できる学術団体として発展できるよう、会員皆様のご助言、ご支援をよろしく願います。また会員の皆様からの論文投稿も心よりお待ちしております。

## 第13回聖路加看護学会学術大会のご案内 (第1報)

日時: 2008年9月27日(土)

会場: 聖路加看護大学

大会長: 杉本 正子

(東邦大学医学部看護学科)

学術大会事務局: 〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20

東邦大学医学部看護学科

美ノ谷研究室内

FAX 03-3762-9266

E-mail: luka@med.toho-u.ac.jp

ただいま本学会の趣旨を踏まえたテーマ等、企画を検討中です。決まりましたらまたお知らせします。

演題締切は例年通り、2008年5月下旬を予定しています。

日程をあらかじめ入れておいていただけたら幸いです。

よろしくお願いいたします。

## お知らせ

### 学術交流委員会

今年度の学術交流会の詳細については、次号に内容が掲載されますのでご参照ください。

次年度の学術交流会は2008年9月27日(土)、第13回聖路加看護学会学術大会終了後に同会場(聖路加看護大学)で引き続き開催する予定です。テーマは「看護の目から見直そう医療の中の衣食住 医療づけにしないためのケアのあり方」を予定しています。入院生活においてパジャマは本当に必要? 口から食べるための工夫、寝たきりにしないための病院環境などについて、パネルディスカッションを企画しています。聖路加が大切にしてきた「個々の患者のQOLを重視したケア」の実践に焦点を当て、日頃の考えや取り組みを紹介したいと考えています。奮ってご参加ください。(担当理事: 中村めぐみ)

### 庶務

- 去る9月22日に聖路加看護学会第12回総会を開催致しました。10月から新年度(2008年)が始まり、事業計画として、学術大会の開催、学会誌年2回の発行、同窓会との連携、将来構想の検討などがあります。
- 現在の会員数は583名です。会員の皆様、周囲の方々にも本学会への勧誘をお願いいたします。
- 皆様の勤務先や所属、住所などの変更がありましたら、本部事務局まで速やかにご連絡くださいますようお願い申し上げます。事務局への連絡は、郵便、Fax、E-mailのいずれかをお願い致します。E-mailaddress: slnr@slcn.ac.jp Fax: 03-5565-1626 (担当理事: 高木廣文、大久保暢子)

### ニュースレター委員会

2008(平成20)年度も、ニュースレターは年2回(22号、23号)、発行予定です。22号は学術大会、23号では学術交流会についてご報告いたします。また、今号より学会ホームページにて、ニュースレター

がPDFファイルにてダウンロードできるようになりました。どうぞご覧ください。(担当理事: 川口千鶴)

### 会計

2008年度の年会費の納入を開始いたします。(本学会の会計年度は10月1日から翌年9月末日です)なお年会費は2006年度より8,000円となっております。納入をどうぞよろしくお願いいたします。過去の納入がお済でない方は本年度分とあわせて納入をお願いいたします。

振込み先: 郵便振替口座 00100 - 8 - 670371

加入者名 聖路加看護学会

過去の納入状況についてのお問い合わせは kaoru-osumi@slcn.ac.jp もしくは 03-5550-2265 (大隅) までお願いいたします。

(担当理事: 田中美恵子、大隅 香)

### 学会誌編集委員会

聖路加看護学会誌は、投稿原稿の増加により、2008年度(第12巻)から3号発行することになりました。詳細は枠内をご覧ください。学会誌への投稿は随時受け付けております。これまで以上に多くの原稿が寄せられますことを願っております。なお、学会ホームページに投稿規程が掲載されておりますのでどうぞご覧ください。

(担当理事: 木下幸代、及川郁子)

### 2008年度 第12巻 発行予定

第12巻1号 2008年3月(投稿原稿募集締め切りました)

第12巻2号 2008年7月(2008年2月下旬 投稿原稿締切)

第12巻3号 2008年9月 学術大会講演集

### 2009年度以降

1号 1月発行(前年8月 投稿原稿締切)

2号 7月発行(同年2月 投稿原稿締切)

3号 9月発行 学術大会講演集

## 編集後記

学会誌が年3回発行されることとなり、聖路加看護学会の発展の兆しを感じます。会員数の増加にむけ、学会入会を周囲に呼びかけたいと思います。会員の皆様も、広報活動の際には、ニュースレターをご活用ください(学会HPにて、本ニュースレターがPDFファイルでダウンロードできます)。(Y・S)

発行: 2007年11月15日 編集: 川口千鶴 長松康子 佐居由美 印刷: ㈱ブリカ  
連絡先: 聖路加看護学会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内  
電話 03-3543-6391(代表) FAX 03-5565-1626(代表) HPアドレス http://slnr.umin.jp/